

2024年

文芸ふじさわ

第58集



表紙のことば

江ノ島弁財天鳥居

初めて江ノ島を見たのは中学2年の修学旅行の時だった。

当時、橋は木製で古ぼけて見えた。歩くとグジャ、貝を踏みつけていたのだ。浅蛸、江ノ島の海でたくさん貝が獲れたコトが分かりました。

十年後、藤沢に住むなどとは、思い至る由もありませんでした。

藤沢に居を構えて、56年。幾度となくこの江ノ島へ来て鳥居の下を潜りました。

昨年秋スケッチに参りました際、しみじみこの鳥居を見上げ、手で触ってみると何と冷たい、青銅の鑄物だったのです。

今回は、この鳥居を取り上げてみました。

=由緒書より=

江ノ島弁財天参拝の玄関口となる鳥居です。

古くは木製であったが1821年青銅製で再建された。今から202年前、江戸時代中頃の事ですね。鳥居の柱には再建に尽力した多くの人の名が刻まれており、信仰の篤さを物語っています。只、海側の面は潮風に晒されてよく読めません。

正面の額は「江ノ島大明神」と書かれていますが、特徴的な筆跡は弁財天のお使いである蛇をかたどっています。我が国にモンゴル軍が襲来した戦い(文永の役)で敵側が退散した事への神思感謝として第91代後宇多天皇が奉納したとされる勅額を写したものです。

1997年、藤沢市指定文化財に登録。

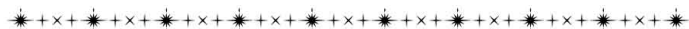
皆さんも江ノ島に行かれた際は、是非この鳥居に触ってみて下さい。歴史を感じますよ。

絵と文 蓮池高夫

文芸ふじさわ

第58集

目次



表紙のことば

「文芸ふじさわ第58集によせて」

俳句	7
短歌	55
川柳	67
五行歌	85
現代詩	97
随筆	107
編集後記	158
サークル紹介	164



「文芸ふじさわ第58集によせて」

藤沢市教育委員会

教育長 岩 本 将 宏

「文芸ふじさわ第58集」が発行されますことをお祝い申し上げますとともに、長きにわたり、文芸を愛されるみなさまとともに、発行を継続してこられたことに心から敬意を表します。「文芸ふじさわ」は、市民のみなさまが、「俳句」「短歌」「川柳」「五行歌」「現代詩」「随筆」の創作活動を通して、自分の思いを表現し、その作品を多くの方々に披露し、その作品をお互いに鑑賞しあう場となっています。

三年以上にわたった新型コロナウイルス感染症を乗り越え、今年こそ平穏なよい年になりますように願った矢先、元日に「令和6年能登半島地震」が起こってしまいました。また、毎年のように起こる水害など、自然災害が年々多くなっている印象です。今年一年が、安全・安心な一年になるよう、あらためて祈念したいと思います。能登半島地震で被災されたみなさまには、一日も早い復興を祈るばかりです。



さて、文芸作品の執筆活動をされている方にとって、ご自身の作品を投稿する場が身近にあることは、とても幸せなことだと思います。他の人に自分の作品を読んでいただけることは励みになりますし、他の人の作品に触れることで、刺激を受け、自らの作品作りの幅を広げることが出来ます。同じ趣味を持つ人たちが、「文芸ふじさわ」を通して切磋琢磨しながら成長しあうことは、とても素晴らしいことだと思います。

これまでの作品を拝見させていただきましたと、幼いころの思い出や、日々の暮らしの中で感じた細やかな心の動き、人や自然とのふれあいの中で感動したことなどを感性豊かにとらえられ、どの作品も素晴らしく、心を動かされるものばかりでした。ぜひ、一人でも多くの方々に読んでいただきたいと感じました。

「文芸ふじさわ」が長年にわたり発行を続けてこられたのは、愛好者のみなさまが熱心に作品の投稿を続けてこられたことと、編集委員のみなさまの不断の努力によるものと思っております。作品の投稿を通して広がるみなさまの輪が、世代を超えて大きく広がり、ますます愛される「文芸ふじさわ」となることを心から願っております。

